



きたおおじ保育園



2023年度 園だより 1月



新年あけましておめでとうございます！
今年も子どもたちにとって、よりよい1年になりますように！！
今年もどうぞよろしくお願ひ致します。



<すべての世代が集まり出会う>



「♪ひ～いらぎ飾ろ～♪ふぁららら♪ら～ら♪ら～ら～ら～♪(^ ^♪)」
子どもたちの可愛すぎる歌声が鳴り響いていた12月。今年の保育園クリスマスでは法人の介護施設を訪れ、おじいちゃん、おばあちゃん達と一緒にクリスマスをお祝いすることができました。きたおおじ保育園は「すべての世代が集まり出会う」そんな世界を目指して2021年に開園しました。しかし当時は新型コロナウイルスが世界を怖がらせており、この素晴らしい環境の中にあっても、なかなか交流できなかったところにも、やっと思うことが出来ました！子どもたちとの出会いに涙を流して喜んでくれたおばあちゃん。少しドキドキしながら、かわいく握手できた仲間たち。とってもステキなクリスマスから、さあ、新しい年へ！

<しつけ不要論>



近ごろ新年度の入園を考えての見学者がたくさん来られます。きたおおじ保育園では「しつけ」という事には力を入れておりません。私はいつもそう説明します。しつけの多くは、子どもを誤った「良い子」の枠組みにはめ込み「意欲」や「思いやり」の発達を妨げてしまったり、思春期や青年期になって、登校拒否、神経症、心身症、のような行動に悩む可能性が大きいからです。

<叱らない子育ては正しい？>



私は、大人都合での「良い子」の枠組みから子どもを解放させ、「そのまんま」を受け入れる保育を20年以上大切に考えてきました。一方で不適切な保育、不適切な子育て。そういった事件が世間を騒がす様になり、叱ってはいけない、そんな世の中に対して少し心配しています。「いたずら」「おどけ、ふざけ」「反抗」「ケンカ」これらは自発性の発達に伴って現れる本当の「良い子」です。しかし、何でもすべて子どもの要求をのんでいると、自分勝手な子どもになってしまう可能性があります。

<親の義務>



自発性に伴う自己主張なのか？わがままな要求から出たものなのか？区別しなくてはなりません。例えば2歳前後の「自分でする～！」は自発性にもとづいていますが「おもちゃ欲しい！」「おやつもっと、ちょうだあ～い！！」という物質的な要求はきちんと断るべきなのです。また、たとえ自発性から出ている自己主張であっても、危険なこと、困る人がいること、傷つけてしまうこと、など、幸せに生きていくために必要な、してはいけないことを子どもに教えることは、「思いやり」を育てるうえでも大切なことであって、親の義務であるとわたしは考えています。



とはいえ、子どもは成長という変化を止めてはくれません。親が忙しく疲れる日々の中、ガッツリ向き合い続けるにはエネルギーが足りない時もあるかもしれません。そのための保育園です。そのための私たちです。今年も一緒に愛していきましょう！

主任保育士 糸井恵太



きたおおじアルバム

